

情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波利用環境委員会 CISPR B 作業班(第11回)議事録(案)

日時 :平成 28 年 9 月 8 日(木) 10:00~11:30

場所 : 中央合同庁舎第7号館(金融庁)13 階 1320 会議室

出席者(敬称略):

(構成員)

主任	清水 敏久	首都大学東京大学院理工学研究科 教授
主任代理	塚原 仁	日産自動車(株)電子・電動要素開発本部 電子システム開発部 電子信頼性グループ主査
	吉岡 康哉	富士電機(株)技術開発本部 コア技術研究所 パワエレ技術開発センター 電源技術開発部 主査
構成員	相川 和則	電気事業連合会情報通信部副部長
	井上 博史	(一社)日本電機工業会 技術部 技術企画課 担当課長
	井上 正弘	(一社)KEC 関西電子工業振興センター
	岡島 寛明	アンリツカスタマーサポート(株)
	加藤 千早	(一財)電波技術協会
	加藤 秀克	日本放送協会技術局送受信技術センター企画部
	橘高 大造	(一社)電波産業会研究開発本部電磁環境グループ主任研究員
	久保田 文人	(一財)テレコムエンジニアリングセンター 電磁環境・較正事業本部 副本部長
	小玉 博一	シャープ(株) エネルギーソリューション事業本部 エネルギーシステム事業部 システム技術部 係長
	杉山 直也	三菱電機ホーム機器(株)家電製品技術部 調理機器技術課
	武田 裕二	コニカミノルタ(株)
	田島 公博	NTT アドバンステクノロジー(株) ネットワークシステム事業本部 システム開発ビジネスユニット EMCチーム チームマネージャ
	中村 一城	(公財)鉄道総合技術研究所 信号・情報技術研究部 ネットワーク・通信研究室 主任研究員
	野島 昭彦	トヨタ自動車(株) 電子技術統括部 品質技術室 主幹
	林 亮司	三菱電機(株)情報技術総合研究所 光・マイクロ波回路技術部専任
	三浦 信佳	電気興業(株) 高周波統括部 設計部 電機設計課主任
	宮島 清富	(一財)電力中央研究所 電力技術研究所 雷・電磁環境領域
	野本 智	超音波工業会 技術委員会
	山本 和博	(一財)電気安全環境研究所 関西事業所

(事務局)

谷口 智哉	総務省	総合通信基盤局	電波部	電波環境課	電磁監視官
柴田 由里	総務省	総合通信基盤局	電波部	電波環境課	電磁障害係長
酒井 健司	総務省	総合通信基盤局	電波部	電波環境課	電磁障害係

【配布資料】

- 資料 11-1 CISPR B 作業班(第 10 回)議事要旨(案)
- 資料 11-2 CISPR 杭州會議 B 小委員会 対処方針(案)
- 資料 11-3-1 電波利用環境委員会報告概要(案)(B 小委員会関連)
- 資料 11-3-2 電波利用環境委員会報告(案)(B 小委員会関連)
- 資料 11-4 CISPR 杭州會議 B 小委員会関連会議参加者(案)
- 参考資料 11-1 電波利用環境委員会(第 26 回)議事要旨
- 参考資料 11-2 B 小委員会 WG1 TF-WPT 杭州會議対処方針
- 参考資料 11-3 CISPR 杭州會議 B 小委員会 WG2 対処方針(案)
- 参考資料 11-4 CISPR B 作業班 構成員名簿

議論

(0)はじめに

- 新しく構成員となった方からの自己紹介(加藤)
- 事務局から配付資料についての確認(清水)

(1)前回議事要旨(案)確認【資料 11-1】

- 資料 11-1 前回議事要旨(案)についての説明(柴田)
※修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することで承認された

(2)CISPR 杭州会議 B 小委員会関連対処方針(案)審議【参考資料 11-1、11-2】

- ① 電波利用環境委員会(第 26 回)議事要旨及び B 小委員会 WG1 TF-WPT 杭州会議対処方針について
- 参考資料 11-1、11-2 についての説明(久保田)

<(2)①の質疑>

- 7 番については 2nd CD になるのか(吉岡)
 - CISPR/661/RR に記載されているプロジェクト線表では、CD が 2016 年 6 月まで、CDV が 2018 年 4 月までとなり、CDV まで期間があるため、2nd CD に回すことが妥当と考えている(久保田)
 - 最終的には Amendment2 としての IS の発行予定が 2019 年 6 月となり、その辺りは 661/RR を参照頂きたい(久保田)
- 2nd CD はオンタイムで動いているのか(清水)
 - オンタイムで動いている(久保田)
- 8 番の Heavy duty は製品委員会でまとめて提案文書を作って CISPR に出す、という話が挙がっており、韓国でも同様のことを実施しているので一緒にやろう、という流れがあるが、韓国から話は有るか(吉岡)
 - 韓国からは話は無い(久保田)
 - (シンシナティ会議で韓国が提出した提案と)ほぼ同じものが ITU にも寄書として出ており、レポート改定に一部記述が暫定的に入っている段階である(承認手続きはまだされていない)。(久保田)
 - ◇ ITU では contribution を元に作業をするので、レポートという成果物の性格上、提案があると何でも文書の中に入れてしまうことが可能(久保田)
- 韓国は試験方法をはっきりさせたいということで、バスなどの大型装置の試験方法を提案すると言っており、それをやることになるのか(吉岡)
 - 何故 ITU のレポートに測定法を入れなくてはいけないのか、と言う議論がまだされていない(久保田)
- 今まさに ITU の地域主管庁会議である AWG が行われており、韓国が突然 heavy duty の測定法を報告書に入れて欲しいと言ってきている(谷口)
 - 日本は、測定法は CISPR での話、としているが、韓国が議長を務める WG なので残してくれと言われており、次回再度検討する予定である(谷口)
- FFT を使用した試験を提案しようとしており、そうすると大型機器に対する試験方法も CISPR に入れてしまう、という話も現実味が出てくるため参考にしたい、ITU に回している文書を提供してほしい。(吉岡)
 - 韓国が ITU に出して、かつ CISPR にも同じように出そうとしているのか、については分からない(谷口)

◇ WPT で、韓国側は大型バスも議論してください、とシンシナティで言っていたはず(吉岡)

- 韓国の提案自体が不完全だったので、一回取り下げて次回出し直したいという話であり、大型バスを議論するというのはまだ合意では無い(久保田)
- CISPR36 は現時点では乗用車しか想定していないが、韓国がバスのミッションの管理をしたいというのであれば、B か D のどっちが引き取るのか、という議論を一度しなくてはならない(野島)
- 9 番については、ほぼ合意に至りつつあるので発言をしておいた方が良い(吉岡)
 - CISPR 全体としてどういう対応になっているのか、と言うのを把握して動いておいた方が良い(吉岡)

② CISPR 杭州会議 B 小委員会 対処方針(案)について

- 資料 11-2 についての説明(吉岡、久保田、宮島)

<(2)②の質疑>

- イギリスから「WG2 を解散したらどうか」という提案が来ており、議論しようという話にしてある(林)
 - 今回、WG1 と WG2 で並行して動くことになっているため、議長は WG2 には出ないかもしれないため、議長とこれから相談するが SC/B 全体会議で議論することになると思う(林)
 - 引き続きイギリスの意向を聴取するが、日本としては WG2 を存続してほしいということになるため、意見をまとめて存続に向けて動き出す必要がある(林)
- WG2 を残すのであれば、鉄道と電力のスマートグリッドみたいな形が良い(吉岡)
- B 作業班としても対処方針をある程度固めてから議論をしなくてはならないが、気になるのが、全体会議の場にて抜き打ちで WG2 解散の提案を実施してくる恐れがある(清水)
 - これから議長と相談するが、今回の会議でいきなり結論を出さないようしてもらおうと考えている(林)
 - Anne Ahn さんに対するアプローチを考えておかないといけず、ロビー活動が必要だろう(吉岡)
- 関連するが、WG2 のやるべきタスクを今後引き続き提案していく必要があるのでは(井上正)
 - SC22F で扱っている高圧を一緒にやったり、鉄道の配電の原理現象を入れたり、また高圧系のエミッション要件の TR など考えられるが、動いていないのが実態である(吉岡)
 - 鉄道系のところはスタックしているものの、必要性はあるので、存続を訴えていく必要がある(清水)
- SC/A に関してだが、昨年話題になった中型サイズの運輸系装置について、今回の会議で H と N のジョイントワーキンググループが発足し、その元となる文書である A/1173/DC が 7/15 付で各国に配布される(田島)
 - EUT サイズによっては既存の暗室で測れなくなるという問題については解決したのか(吉岡)
 - ◇ 10メートル換算の時の許容範囲を広げる、ということで対応出来ることになっている(田島)
- 6.2 の APD だが、製品規格の話が一番優先度も高く、これが採用されなければ鉄道には採用されないのでは、WP2 で要領を作ってしまう、IEC 62236 で引用するという提案が考えられる(吉岡)
 - 本当であれば、TC9 は CISPR を引用しないといけませんが、「EMC 委員会としては APD を使った測定方法として原理的な方法を整理する」、というシナリオでやってみてはいかが(吉岡)
 - ◇ これまでやってきた経緯を踏まえて、という話があったので、そういった観点を含めて整理をしていきたい(中村)
 - 本件はスタックしてしまっており、引き続きスタックしすぎるとこれも要らない、と言う話になるので、提案型で話をして言って頂きたい(清水)

- 電波利用環境委員会資料の鉄道の部分だが、今回ペンディングということもあり削除しているが、日本でデータを蓄積した上で再度提案するという内容で再提案する(中村)
 - APD を入れたいという話では無く、正規の形に戻したいという言い方をすると良い(吉岡)

(3) 電波利用環境委員会報告書(案)について 【資料 11-3-1】

- 資料 11-3-1 についての説明(清水)

<(3)の質疑>

- CISPR の電磁界測定方法の許容値はアナログ放送向けであってデジタル放送には使えないという主張をする方々があり、一方で APD はデジタル放送に対する適合性がいいことだったが、この辺りはどういう状況になっているのか(吉岡)
 - アナログ向けでありデジタル向けでは無いという話は初耳である(谷口)
 - CISPR は妨害波の部分であって、デジタルやアナログといった違いは無いと認識していた(谷口)
 - 新しくしなくてはいけないので APD がいい、ということを行っている業界がある(吉岡)
 - 信号がアナログ信号で出てくるとノイズになるが、デジタル放送の場合には信号処理で回復できるので、厳しくなくても良いのでは、という話が有る(清水)
 - 通常の放送の場合、デジタル波に移行していれば信号処理方法等が違うので、中途半端に写るということは無くなる(清水)
 - APD は日本も実績が有る(吉岡)
- 資料 11-3-1 の TR18 改訂の話で「電力輸送システムを取り巻く状況の変化を受けて」と書いて頂いている電力輸送システムと送電システムは違うのか、状況の変化とはどういうことか(谷口)
 - 削除を行う(清水)
 - スマートグリッド系や IoT といったことを指している(清水)
- 今回の資料については、次回の電波環境委員会で報告する(清水)

(4) CISPR 杭州会議B小委員会関連会議参加者(案)について 【資料 11-4】

- 資料 11-4 についての説明(中村、宮島)
 - ※承認された

(5) 今後の予定

- 今後の予定は、9月13日の電波利用環境委員会での審議がある(柴田)
- 次回会合は、主任と相談の上、事務局から構成員にメールで連絡する(柴田)

以上